

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第4区分

【発行日】平成29年9月28日(2017.9.28)

【公表番号】特表2016-536966(P2016-536966A)

【公表日】平成28年11月24日(2016.11.24)

【年通号数】公開・登録公報2016-065

【出願番号】特願2016-539586(P2016-539586)

【国際特許分類】

H 02 K 11/40 (2016.01)

H 05 F 3/02 (2006.01)

H 05 F 3/04 (2006.01)

H 02 K 11/028 (2016.01)

【F I】

H 02 K 11/40

H 05 F 3/02 N

H 05 F 3/04 B

H 02 K 11/028

【手続補正書】

【提出日】平成29年8月17日(2017.8.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項9】

前記ホルダ(65)は、前記シャフト接触面Wに対してオフセットされるホルダ面H内に配置され、前記導体部(62、63)は、前記ホルダ面Hから前記シャフト接触面Wへと傾いた態様で延びる移行部(66、67)を有することを特徴とする請求項1から8のいずれか一項に記載の放電装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

他の実施形態にしたがって、ホルダから突出する自由導体部が長さを変えられ得るように部端がホルダ内に長手方向に移動できる態様で受け入れられれば、導体の自由屈曲長さを変え、それに伴ってシャフト接触部がシャフト外周に当接する際の接触力を変えることによって、接触力の大きさを調整することができる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

放電装置10は、メンテナンスカバー15に接続されるホルダ16を有する。特に図1及び図2の組み合わされた図から明らかとなるように、手近な実施形態例の場合、ホルダ16は、好ましくはプラスチックから形成されるとともにU形状ガイドチャネル構成部1

8 が形成されて成るホルダ本体 17 と、手近な実施形態例では同様にプラスチックから形成されるホルダカバー 19 とを備える。ガイドチャネル構成部 18 は、導体 23 の取り付け部分 20 を受ける役目を果たし、前記導体の導体部 21、22 がガイドチャネル構成部 18 から抜け出て案内される。

【手続補正 4】

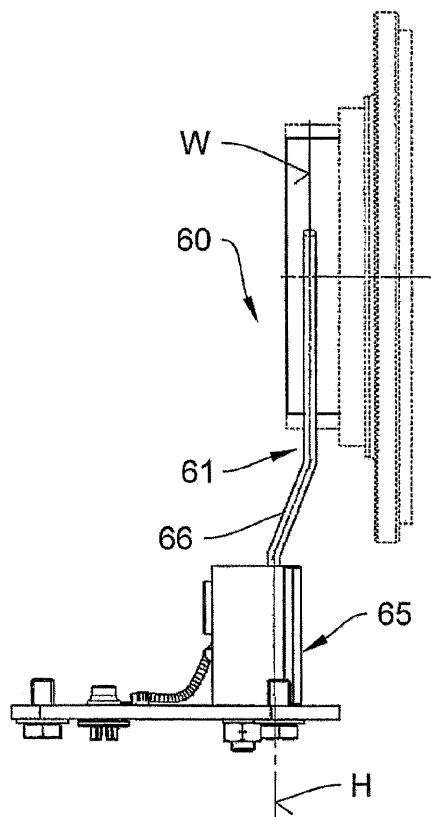
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 5】



【手続補正 5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図6】

